



アーティスト・フォローアップ事業とは？

アーティスト・フォローアップ事業は、未来を創造する 39 歳以下の若手アーティストを千葉県が支援する事業です。

令和 6 年 4 月からスタートした第 1 期では、4 分野（絵画・彫刻、デザイン、軽音楽、コンテンポラリーダンス）からプログラム 1 とプログラム 2^{*}のそれぞれ 1 名ずつ、計 8 名の支援対象者を選定。令和 7 年 2 月まで支援を行うとともに、同年 3 月には千葉県立美術館で成果展を開催しました。

令和 7 年 4 月からは第 2 期アーティストとして、4 分野（美術（平面・立体）、デザイン、軽音楽、コンテンポラリーダンス）から各プログラム計 5 名の支援対象者を選定し、支援を行っています。

支援の内容は？

将来性のある豊かな才能を発掘し、アーティストとしてのキャリア形成に係る活動等に対し、専門家からの助言などの伴走支援や、活動経費の一部を助成します。

また、成果発表の場の提供や、支援対象者（第 1 期から第 3 期）同士の交流の場を提供します。

※プログラム 1（伴走型）、プログラム 2（テーマ設定型）とは？

第 2 期までは①アーティストとしてのキャリア形成に係る活動等に対し、専門家からの助言などの伴走支援や活動経費の一部を助成する「プログラム 1」と、②設定するテーマで他の芸術家の関心を集め、独創性のある芸術活動を行う才能豊かなアーティストに対し、活動経費の一部助成をする「プログラム 2」の 2 つのプログラムを設けていました。

〔第 1 期テーマ：東京の隣接性を意識しつつ、千葉の豊かな自然環境を活かす芸術創造活動
第 2 期テーマ：千葉県独自の多様な魅力（豊かな自然、歴史、文化など）をテーマにした芸術創造活動〕

《選考・支援委員》

美術	井浦 嶽和（ギャラリスト）、泉 東臣（画家）、金巻 芳俊（彫刻家）、 金丸 悠児（画家）、木原 千春（画家）、 藤原 さゆり（藤原羽田合同会社代表、NINE LIP 統括ディレクター）
デザイン	植田 憲（千葉大学教授）、阿部厚司（（株）ミライノラボ取締役 COO）、 佐藤 公信（千葉大学教授）、西田 直海（NPO 法人 Drops 理事長）
軽音楽	依知川 伸一（ベーシスト・作曲家）、石川 武（パーカッショニスト）、 安達 たけし（作・編曲家／ギタリスト）
コンテンポラリーダンス	多田 淳之介（演出家）、加藤 弓奈（急な坂スタジオ理事）、 神村 恵（ダンサー・振付師）、岩渕 貞太（振付家・ダンサー）





第1期支援アーティスト

【絵画・彫刻】



ARTIST
FOLLOW UP
CHIBA
アーティスト フォローアップ

伴走型

しらたに たくま
白谷 琢磨／木彫

1994年佐賀県生まれ、2019年東京芸術大学美術学部彫刻科卒業、2021年同大学院美術研究家彫刻専攻修了

木彫、乾漆などを使い彫刻的な表現を試みる。紙を折ることと木を彫ることはどちらも祈りに通じる行為であるとし、折り紙をモチーフにした木彫彩色作品を制作。



神馬（木彫）



神蛇（木彫）



海獣（木彫）

テーマ
設定型

まえの
前野

まはる
真榛／空間彫刻



1994年、千葉県我孫子市出身。東京藝術大学音楽環境創造科で地域社会やコミュニティに介入する日本型アートプロジェクトを学び、鑑賞者とのコミュニケーションプロセス自体が核となるプロジェクト型の作品制作を行ってきた。2021年以降はベルリン・ヴァイセンゼー美術大学の修士課程空間戦略科に所属し、脱植民地支配や気候変動の多面的な課題に、他のアーティストや科学者と協働しながら領域横断的に取り組んでいる。



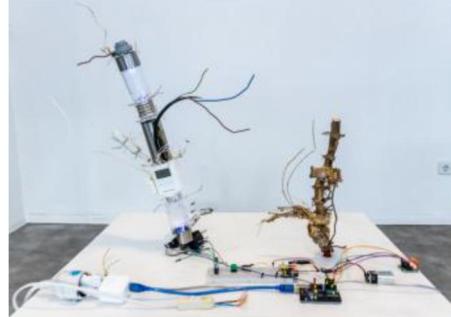
©吉田駿太朗



2024年ベルリンでの個展
「MIT DER NATUR」チラシ



Plants pro wrestling



The tale of the Bamboo Cutter



第1期支援アーティスト

【デザイン】

ARTIST
FOLLOW UP
CHIBA
アーティスト フォローアップ

伴走型

たかぎ ゆうき

高木 友貴

/文化財活用



地域資源デジタルデザイン研究所 代表

大学、大学院在籍時に文化財の3Dデータの取得・保存・活用を通した地域資源の共有化の研究に取り組む。

消失が危ぶまれ、かつ潜在化してしまっている地域の文化財の3Dデータを取得・保存することで後世にその資源を繋いでいくとともに、その文化財の価値をより広く伝え、高めるための展示や製品化などへの展開までを一貫して行うとともに、地域の人びとと協力しながら地域で文化財を守っていけるような持続的な仕組みの構築を目指す。



菅公像レプリカ制作過程



菅公像レプリカ



不動明王御守り木札
WSの作品例

テーマ でんえもんせいさくじょ 設定型 伝右衛門製作所 /ジビエアート



自然豊かな千葉県の里山に、ものづくりとアートの視点から光を当てるべく姉妹で活動しているグループ。

里山で害獣として駆除された野生動物の皮や骨を主な題材としており、制作を通して崩れつつある山と里の現状を伝えること、その在り方を広く問いかけ、模索することを目的としている。



参画アーティスト向け
頭骨クリーニング
ワークショップの様子



「satoyama」/
伝右衛門製作所
Matagot



キヨン頭骨×
キヨン革つまみ
細工作品/藤井彩野



「創世記第7章」/
伝右衛門製作所
Matagot (シカ革の
羊皮紙素材)



第1期支援アーティスト

【軽音楽】



まつだ

伴走型 松田 ひかり /シンガーソングライター

1993年長野県生まれ。2009年ごろから作曲をはじめる。2011年に上京し、出会った本や映画、街での生活から音楽的インスピレーションを受け、メトロノリという名義で制作と発表を重ねる。偶然に発見される音の生と場所の記憶を残すポップミュージックの在り方を考え実験する。2021年に千葉県に移住し、制作を続けている。



ワルシャワでのライブ1



ワルシャワでのライブ2



ベルリンでのライブ

あんどうとも
テーマ 安藤巴 /打楽器奏者



1997年、柏市出身。音楽家、打楽器奏者。

両親の影響で幼いころよりピアノ、ドラムを始め、オーケストラなどたくさんの音楽を聴いて育つ。13歳から作曲を、その後本格的に打楽器を学び、東京藝術大学打楽器専攻に入学。在学中打楽器ソロに出会い、その自由さ、音色の多彩さに惹かれ、以降意欲的に取り組む。

卒業後はフリーの打楽器奏者として全国のオーケストラへの客演を中心に、現代アンサンブルへの参加、独奏の機会も多い。さらに近年は身の回りのものや打楽器を用いた自分自身の表現を模索しており、即興演奏、楽曲制作、ライブ活動も増えている。



安藤巴 パーカッションソロ
2024年5月16日 東京文化会館 小ホール



「安房にて」 2025年2月11日
鴨川 SupernaturalDeluxe



「安房にて」 2025年2月11日
鴨川 SupernaturalDeluxe



第1期支援アーティスト 【コンテンポラリーダンス】



いわた なつき
岩田 奈津季 /ダンサー

2002年千葉県流山市生まれ流山育ち。立教大学現代心理学部映像身体学科を卒業。

砂連尾理に師事し、ダンスなどを学ぶ。

身体の特性や社会構造の持つ「どうしようもなさ」に向き合い、それと共に踊り続けていくことを目指している。「相手事」という概念を軸に、人と対話を重ね、言葉を共有することで、人、物、音、空間との関係性を組み立てている。



「ヴァイオリンに振り付ける」



「木を切る(切らすに)」



「あいてごとダンス」(2025年2月)
アフタートークの様子

ゆうぶしゃ けいこ
テーマ 遊舞舎 慶子 / 舞踏家



舞踏家。1999年生まれ。東京藝術大学美術研究科グローバルアートプラクティス専攻卒。クマ財団7期生。

舞踏を軸としたパフォーマンスユニット「遊舞舎」所属。都市における「まれびと」的存在（自然との接続を持つものとして人間の本質的な奥底を共振させ得る他者）としての舞踏表現の在り方を探求する。



「叙景夏草木塔」舞台写真1



「叙景夏草木塔」舞台写真2



「叙景夏草木塔」舞台写真3



「叙景夏草木塔」ワークショップ



第2期支援アーティスト

美術（平面・立体）

なかかぜ しんじ

中風 森滋／油絵画家〔伴走型〕



1994年、千葉に生まれる。2018年、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。2022年、同大学大学院美術研究科修了。

現実の情報量についていけず、想像力も満足に働かない感覚を、漫画的な、デフォルメされた二次元の世界を通して、感じてみる試みを行っている。キャラクターを描いてきた経験をキャンバスに表現する事で、キャラクターの奥に潜む本質的なものを見ようとしている。



よこお たくろう
横尾 拓郎／版画家、美術作家〔テーマ設定型〕※



表現を通して身体と場所、記憶、言語について考え、小さな痕跡や曖昧な場所のイメージを追いかげながら世界の中の距離や区切りについて理解しようとしている。

版画の制作過程にある間接的・水平的・反復運動的なプロセスを通じて、場所の表面に刻まれた痕跡や、領域を切り分けているものを視覚言語に翻訳し出力・提示することで、鑑賞者と曖昧で親密な距離で接続することを試みている。

拓本取りの技法を応用し、千葉県内の公共施設や廃校、工場などを墨と紙を用いて残していく活動を行う。



※第2期のテーマは、千葉県独自の多様な魅力（豊かな自然、歴史、文化など）をテーマにした芸術創造活動。



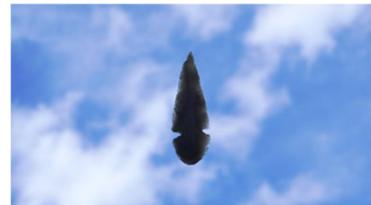
第2期支援アーティスト

デザイン

くも そらと／デザイナー [伴走型]



日本を拠点に活動しているデザイナー。自分の中から湧き出る好奇心や探究心を追求していく私的なデザインと、新たな土地や人との関わり、そこで出会う未知の素材や技術の中から生まれる対人的なデザインという2つの方法を行き来しながら、様々な分野で制作活動をしている。



軽音楽

とうほう こうすけ

TOHO (東方 洋介) / チューバ奏者 [テーマ設定型] *



チューバという楽器の枠にとらわれない、幅広い音楽ジャンルのステージで活躍する。2019年、ITEA主催の国際ジャズコンクールにて優勝。数多くのアーティスト、バンドのサポートで音楽フェスや国際ツアーに参加する一方、「TOHO」という名義で自身のソロプロジェクトも展開。また、東京コミュニティスクールにて小学生を対象に音楽指導の教員を務めるなど、次世代の音楽教育にも情熱を注いでいる。自然に囲まれた手賀沼公園を舞台に、ストレスフリーな空間で音楽や芸術に触れられるイベントを開催する。



コンテンポラリーダンス

きくち

菊池 もなみ／ディレクター、パフォーマー [伴走型]

HANAICHI主宰。各地の風土や暮らしから生まれる表現を探求し、音や手触り、その場にある様々な要素と身体のつながりを作品にする。俳優としてキャリアをスタートし、2016年より日本各地の地歌舞伎や伝統芸能を訪ね歩く。

劇場での舞台班、演出助手などを経験したのち、山形、兵庫、奄美大島など日本各地でのフィールドワークを展開、作品創作を行う。2023年インドネシア中部ジャワに滞在。

国や文化、分野を越えた協働と、様々な人が集う「場」づくりに関心をもつ。

